

**科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業**  
**研究支援人材育成プログラム**  
**(実施期間：平成 26～令和 3 年度)**

**コンソーシアム名：地域特性を活用した「多能工型」研究支援人材養成拠点**

**代表機関：群馬大学（総括責任者：石崎 泰樹）**

**共同実施機関：宇都宮大学、茨城大学**

**取組の概要**

群馬大学、宇都宮大学、茨城大学の 3 大学は、研究支援人材育成コンソーシアムを形成し、研究プロジェクトの企画立案から成果の創出まで一貫通貫で関わり、イノベーションの創出に寄与できる研究支援人材（URA）の育成を行う体制を構築する。本コンソーシアムには、埼玉大学も連携機関として参画する。本コンソーシアムにおける主たる教育プログラムの要素は、（1）研究活動の把握、（2）知財管理と契約、（3）リスクマネジメント・コンプライアンス、（4）ファンド申請への対応、（5）企業の研究開発活動の理解、（6）プロジェクトの企画立案からプロジェクト関係者間の調整能力の涵養の 6 つであり、それぞれの項目ごとに教育プログラムを提供し、受講対象者の能力を毎年評価して、事業終了後に受講者の大学内での定着を目指す。さらには、今回提案する教育プログラムについて、4 大学以外にも広く提供し、これにより教育プログラムが補助金による支援がなくても、広く活用されていくことも将来的に目指す。

**(1) 評価結果**

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (システム構築)	進捗状況 (取組の内容)	体制構築	今後の進め方
S	s	a	s	a	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

**(2) 評価コメント**

多能工型の URA 研究支援人材育成プログラムにより、研究プロジェクトの企画立案から成果の創出まで関わり、イノベーションの創出に寄与できる人材の育成を行った。本教育プログラムの高い波及効果として、補助期間終了後も有償参加で多くの大学が人材育成プログラムに参加した実績は高く評価できる。また、本コンソーシアム事業で得られたノウハウや知識が、文部科学省 URA 質保証事業の URA スキル認定機構における、資格認証制度や教育プログラムに活用されたと認められる。本コンソーシアムにおいて今後も URA の導入教育等が継続することも評価できる。

・**進捗状況（全般）**：URA 採用者数は 11 名となり、所期の目標を超えて達成していることは評価できる。各大学に在籍した者は任期の定めのない雇用形態に移行し、雇用システムが着実に整備された。教育プログラムの実施にあたり、平成 28 年度から実施機関以外の大学からの参加を受け入れ、平成 30 年度の有償化後も多くの参加者が加わった。本事業の URA の育成プログラムが幅広く支持され、有効に活用されたものと高く評価できる。

・**進捗状況（システム構築）**：教育プログラムは 6 項目の基盤スキルを涵養すべく、座学 17 講座と 12 の実習講座を実施し、筆記テストや各種レポート課題を用いた学修評価システムが構築され

ている点は高く評価できる。大学での実務における業績についても業績評価シートを設定し、3大学で雇用された研究支援人材が提出した結果を相対化する仕組みを構築している。運営協議会、研究支援人材評価委員会が円滑に運用され、URAが専門性の高い新たな職種として、キャリア形成される仕組みが整備されたことは評価できる。

・**進捗状況（取組の内容）**：選考に当たる人材育成対象者選考委員会は、事業実施機関である3大学からの他、連携機関の埼玉大学や外部の有識者が加わり構成された。審査は筆記、書類、面接試験の評価観点を定め点数化し、客観性を重視して公平に実施された。研修プログラムと評価システムがうまく機能しており、個々の研究支援人材が、業務に対処する上でどういった研鑽を積み重ねれば実績が挙げられるのかが明確にされており、実際の科研費獲得や企業との共同研究締結に結びついている。

・**体制構築**：運営協議会は実施機関の理事(副学長)及び連携機関を含む関係者で構成されており、教育プログラムの企画・実行を行う研究支援人材評価委員会と研究支援人材の選定を行う人材育成対象者選考委員会が明確に組織されていることは評価できる。活動全般に関し改善を図るために外部評価委員会が設けられ、外部評価委員会からの指摘事項への対応は適切に行われた。

・**今後の進め方**：本コンソーシアムは今後も継続的に維持され、事業実施機関において新規に雇用されたURAを対象とした導入教育等の研修会を3大学の費用負担の中で行っていくことを決定していることは評価できる。本コンソーシアム事業が文部科学省等のURA関連事業に波及したことは評価できる。